

**社協認知度等に関する  
市民アンケート調査結果  
【最終版】**

平成22年1月

社会福祉法人 伊達市社会福祉協議会

## 第1章 アンケート調査の概要

### 1. アンケート調査の目的

福祉のニーズが多様化する中で、地域福祉の方向性や重点を探り、誰もが安心して暮らすことのできる福祉のまちづくりを推進することを目的に実施しました。

### 2. アンケート調査の方法

#### (1) 調査対象

伊達市の各自治会に加入している13,536世帯の市民を対象としました。

#### (2) 調査時期

平成20年10月に対象世帯に伊達市広報誌「広報だて」と共に自治会を通じ配布し、同年11月5日を締め切りとして郵送にて回収しました。

#### (3) 回収状況

有効回答数は1,813件、有効回収率は13.4%（総配布数13,536件）でした。

なお、対象者の地区別の回収状況は以下の通りです。

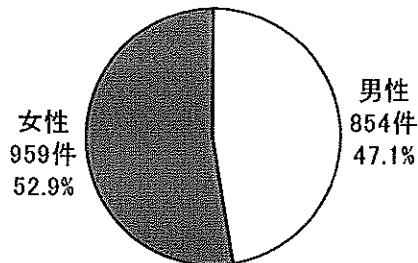
【地区別回答状況】

	黄金	稀府	東	中央	関内	長和	有珠	市街	大滝	無回答
配布数	588	792	2,943	3,645	158	925	782	3,105	598	
回答数	84	111	399	430	26	114	96	452	87	14
回答率	14.3%	14.0%	13.6%	11.8%	16.5%	12.3%	12.3%	14.6%	14.5%	

## 第2章 アンケート調査の結果

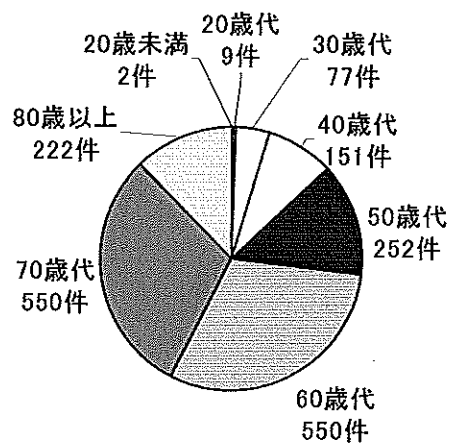
### 問1【性別】

性別は、男性が47.1%に対し、女性が52.9%と若干多い。



### 問2【年齢】

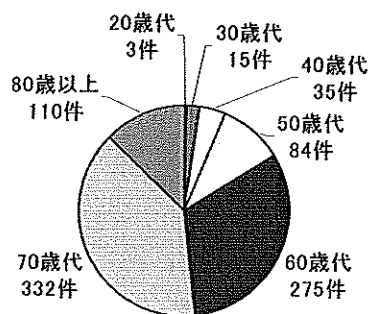
回答者は、70歳代（30.3%）、60歳代（30.3%）が多く、20歳未満（0.1%）、20歳代（0.5%）は少ない。



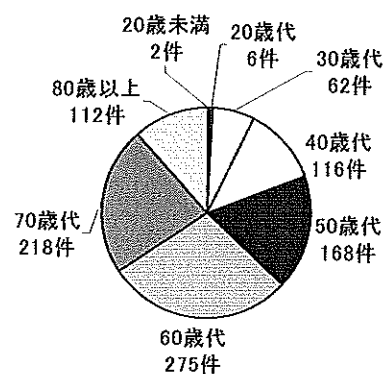
### 【年齢】 - 2

回答者の年齢を男女別に見ると、男性では70歳代が38.9%と最も多く、女性では60歳代が29.7%と最も多い。

#### 《男性》

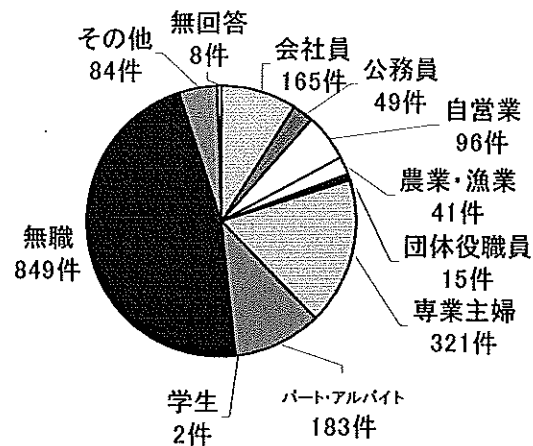


#### 《女性》



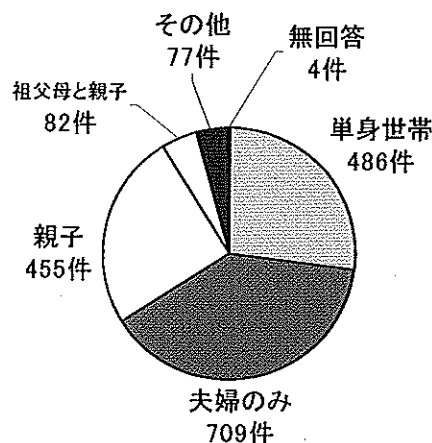
問3【職業】

回答者の7割以上が60歳以上のため無職が46.8%と最も多く、次いで、専業主婦(17.7%)、パート・アルバイト(10.1%)、会社員(9.1%)、自営業(5.3%)の順となっている。



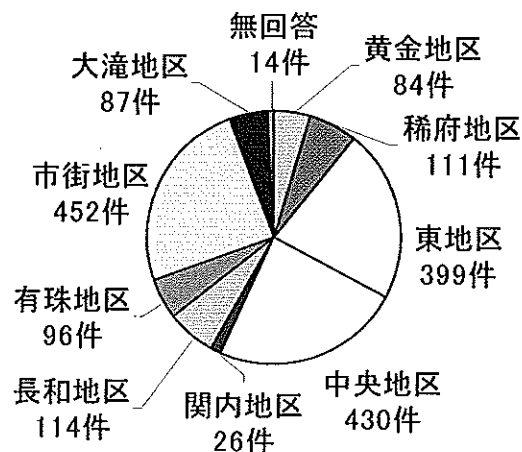
問4【家族構成】

回答者の家族構成としては、夫婦のみ世帯が39.1%と最も多く、次いで単身世帯(26.8%)、親子世帯(25.1%)の順となっている。祖父母と親子の3世代同居は4.5%と少ない。



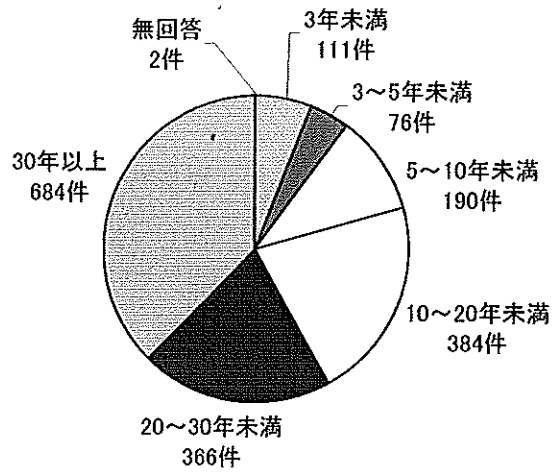
問5【居住地区】

回答者の居住地区は、もともと人口が集積している市街地区(24.9%)、中央地区(23.7%)、東地区(22.0%)が多い。大滝地区は4.8%となっている。



問6【居住年数】

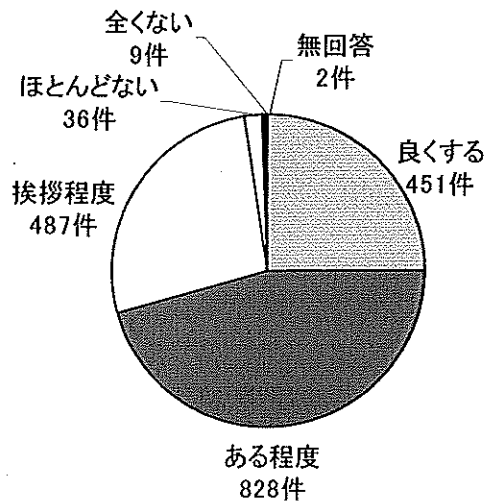
回答者の居住年数は、30年以上が37.7%と最も多く、10年以上は全体の79.1%を占めている。



問7 あなたは隣近所とどの程度のお付き合いをしていますか？

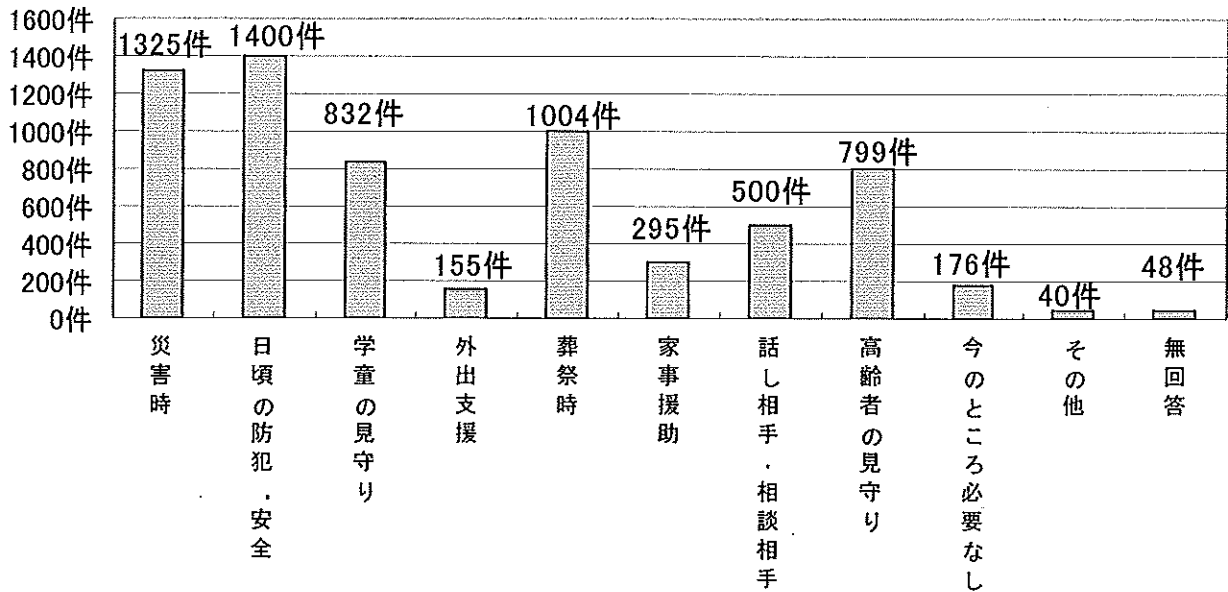
隣近所との関わりについては、「日頃から良くお付き合いをしている」(24.9%)と、「ある度お付き合いしている」(45.7%)を合わせると全体の70.6%を占める。

「挨拶を交わす程度」(付き合いをあまりしていない)は26.9%となっている。



問8 どのような時に、地縁（地域住民との交流やたすけあいが必要だと思いますか？（5つまで）

どの様な時に地縁が必要と思うかの問いについては、「日頃の防犯・安全」（77.2%）が最も多く、次いで、「災害時」（73.1%）、「葬祭時」（55.4%）となっている。  
男女差はほとんどない。

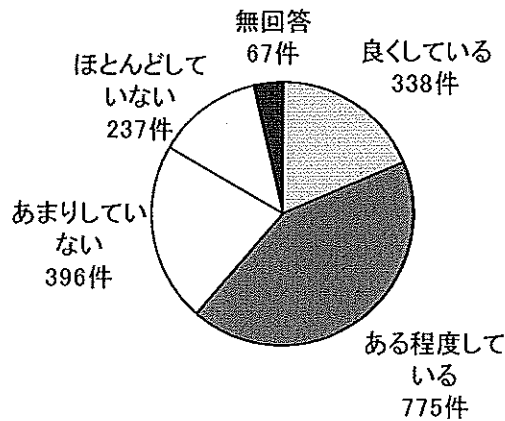


〔「その他」の内訳〕

- ・子育て（障がい児含む）支援／3件
- ・自治会活動・行事／5件
- ・除雪・除草／5件
- ・病気時／3件
- ・農家の手伝い／1件
- ・苦情処理／1件

問9 あなたは地域行事や活動等に参加、協力していますか？

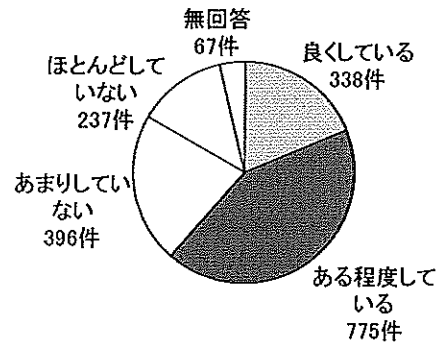
地域事業・活動等への参加状況は、「良くしている」、「ある程度している」を合わせると全体の61.4%を占める。  
「ほとんどしていない」は13.1%となっている。



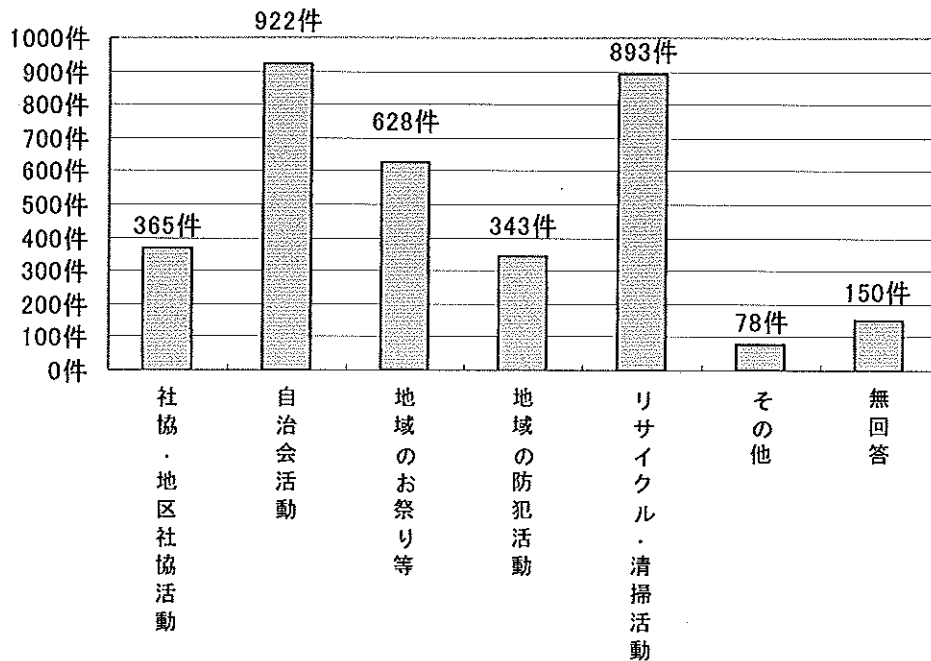
問10 問9で「良くしている」「ある程度している」と回答した方に、その活動内容についてお聞きします。(複数回答)

地域事業・活動等に参加している方の活動内容については、「自治会活動」(82.8%)が最も多く、次いで、「リサイクル・清掃活動」(80.2%)、「地域のお祭り等」(56.4%)の順となっている。  
 「社協・地区社協活動」は32.8%、「地域の防犯活動」は30.8%となっている。

回答	男性	女性
良くしている	226(26.5%)	112(11.7%)
ある程度している	359(42.0%)	416(43.4%)
あまりしていない	157(18.4%)	239(24.9%)
ほとんどしていない	83(9.7%)	154(16.0%)
無回答	29(3.4%)	38(4.0%)
合計	854件(100%)	959件(100%)



〔「良くしている」「ある程度している」人の活動内容〕

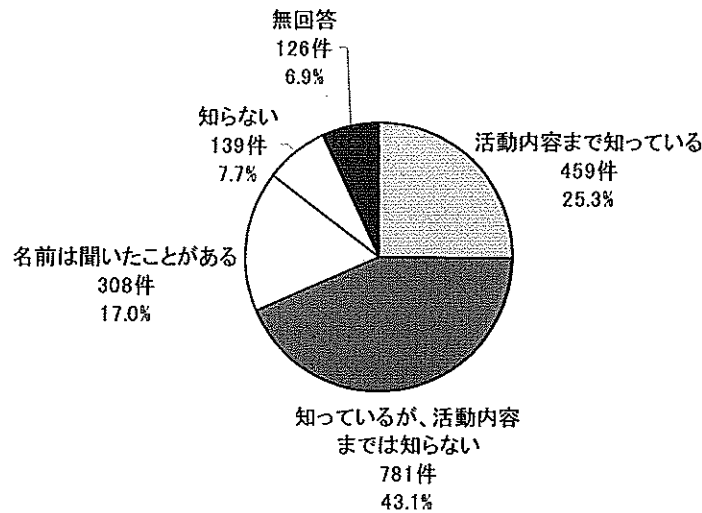


〔「その他」の内訳〕

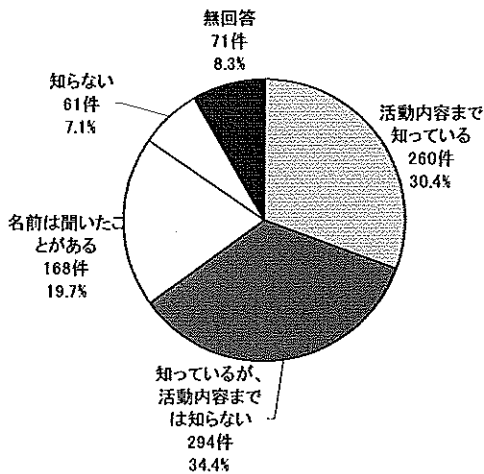
- ・老人クラブ、サークル活動
- ・レクリエーション・スポーツ活動
- ・子供会、青少年育成
- ・児童の見守り・支援
- ・高齢者の見守り・支援
- ・ボランティア活動
- ・除雪、除草
- ・シルバー人材センター
- ・道路沿いの花壇作り
- ・民生委員児童委員活動
- ・親睦会

問11 あなたは、伊達市社会福祉協議会（社協）をご存知ですか？

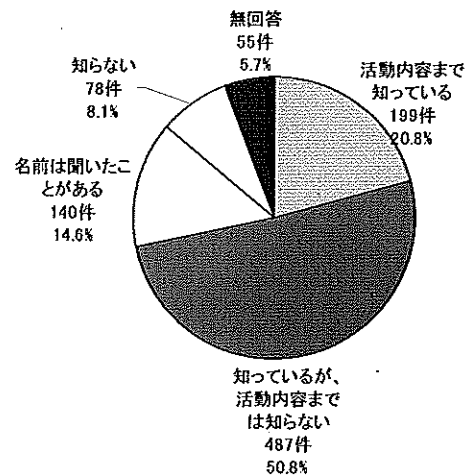
回答者の68.4%は、社協の存在を知っているが、この内、63.0%が活動内容を知らなかった。



《男性》



《女性》



社会福祉協議会とは・・・

- 性格** 社会福祉協議会（通称「社協」）は、暮らしの中に関するいろいろな問題を解決しながら、みんなが安心して暮らすことのできる地域社会をめざして活動している社会福祉法に明記された民間の非営利団体です。
- 組織** 社会福祉協議会は、全国の市区町村、都道府県・指定都市及び全国段階に設置され、そのネットワークにより活動をすすめている団体です。また、民間組織としての自主性を持つと同時に、広く住民や社会福祉関係者に支えられた公共性を持つ団体です。
- 目的** 地域が抱えているさまざまな福祉問題を地域全体の問題としてとらえ、みんなで考え、話し合い、協力して解決を図ることを目的としています。そして、その活動を通して、心ふれあう「福祉のまちづくり」をめざしています。
- 構成** 市内で暮らす住民のみなさん、社会福祉や保険・医療、教育などの関連分野の関係者さらに地域社会を形成するほかのさまざまな専門家・団体・機関によって構成されています。
- 事業** 住民の福祉活動の場づくり、仲間づくりなどの援助や社会福祉に関わる公私の関係者・団体・機関の連携をすすめたり、具体的な福祉サービスの企画や実施を行います。

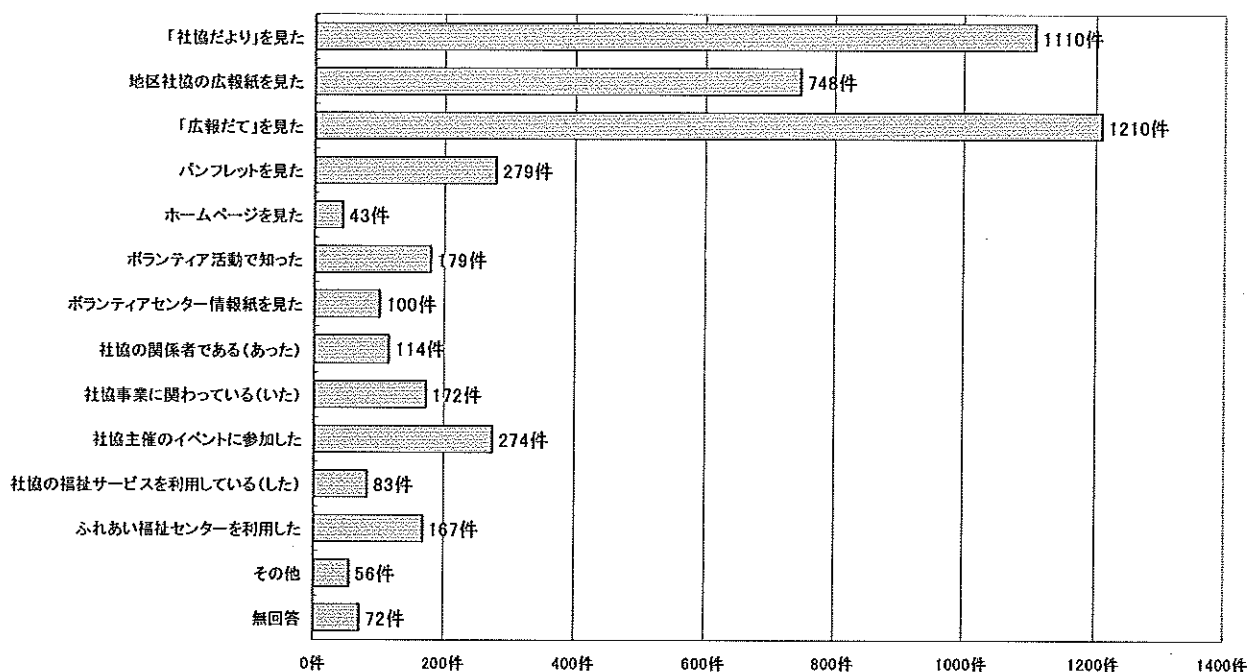
問12～問14までの回答は、問11で「知らない」と回答した方以外の回答数で集計しています。  
 (回答数=男性：793件 女性：881件 計1,674件)

問12 社協を知った理由をお聞きします。(複数回答)

「広報だてを見た」(72.3%)が最も多く、次いで、「社協だよりを見た」(66.3%)、「地区社協の広報紙を見た」(44.7%)の順となっており、広報紙によるものが圧倒的に多い。

「ホームページを見た」(2.6%)、「社協の福祉サービスを利用している(いた)」(5.0%)は少ない。

男女差はあまりない。



〔「その他」の内訳〕

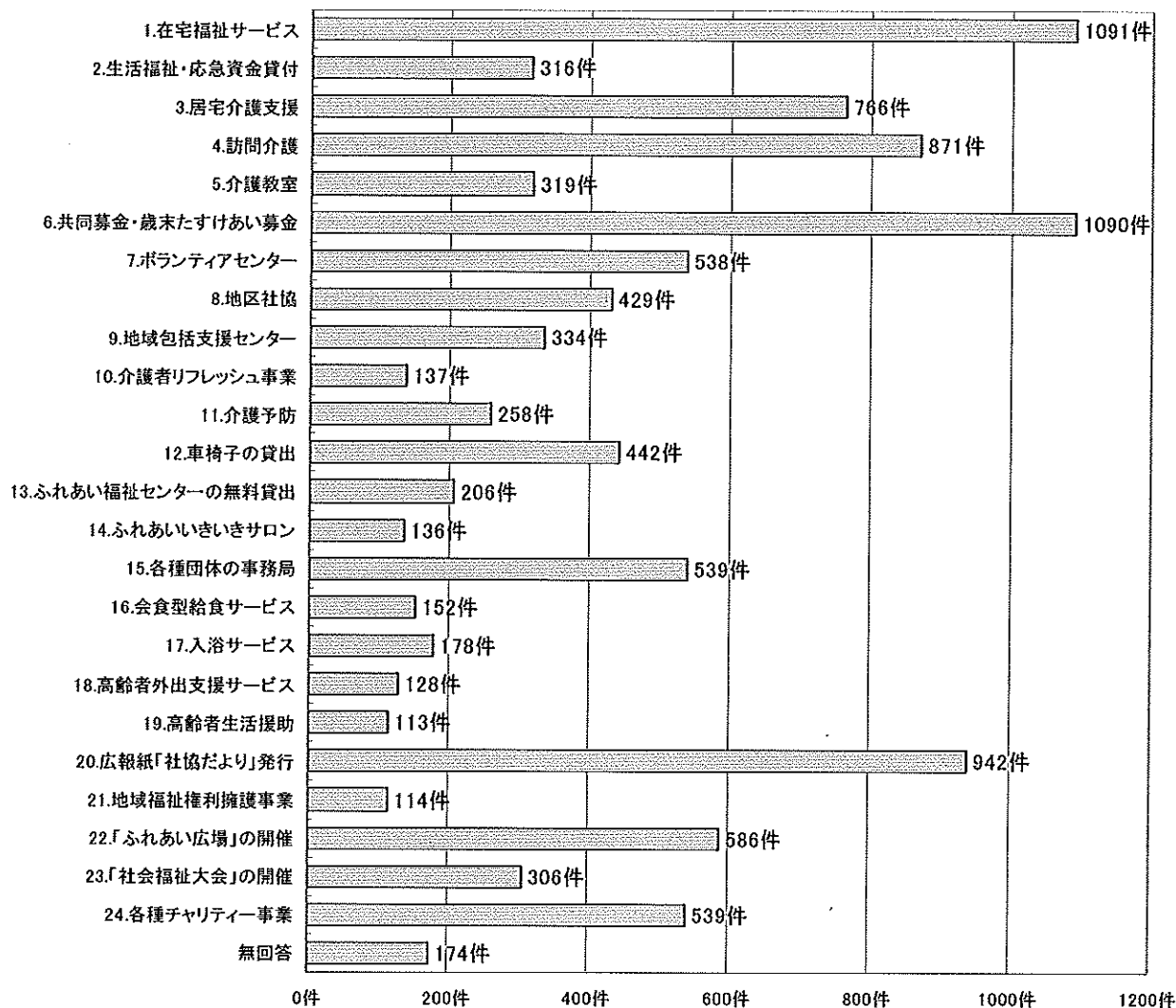
- ・福祉関係の仕事をしている
- ・自治会、福祉活動を通して
- ・寄付、募金活動を通して
- ・社協関係者等の知人を通して

問13 社協の仕事（サービス）で、あなたが知っているものを選んで下さい。（複数回答）

「在宅サービス」（65.2%）が最も多く、次いで、「共同募金・歳末たすけあい募金」（65.1%）、  
「広報紙社協だよりの発行」（56.3%）の順となっている。

「介護者リフレッシュ事業」（8.2%）、「ふれあいいいききサロン」（8.1%）、「地域福祉権利擁護事業」（6.8%）は少ない。

また、大滝地区のみの事業である「会食型給食サービス」、「入浴サービス」、「高齢者外出支援サービス」、「高齢者生活援助」の認知度は11～6%と少ない。



事業内容

1 在宅福祉サービス

（給食）60歳以上のひとり暮らし高齢者等へ月・水・金の夕食をボランティアの協力で配食しています。

（移送）65歳以上の寝たきり高齢者等の通院時の送迎等をボランティアの協力で行っています。

（訪問）65歳以上のひとり暮らし等で見守りの必要な方へボランティアの協力で訪問をしています。

（電話）65歳以上のひとり暮らし高齢者等へボランティアの協力で電話による話し相手・相談等を行っています。

2	生活福祉・応急資金貸付事業 (生活福祉資金) 北海道社会福祉協議会が行っている資金貸付事業です。低所得世帯や障がい者・高齢者世帯等へ資金貸付を行っています。更生資金、福祉資金、修学資金などがあり、伊達市社協では相談窓口をしています。 (生活応急資金) 伊達市社協が行っている資金貸付事業です。低所得世帯等で応急に生活資金・更生資金が必要な方へ3万円を限度に資金貸付を行っています。貸付期間3か月以内、無利息。ただし、借り入れには保証人が1人以上必要です。
3	居宅介護支援事業 (ケアプラン作成) 介護保険制度によるケアプランの作成、訪問調査、相談助言を行っています。
4	訪問介護 (ヘルパー派遣) 介護保険制度によるホームヘルプサービスを行っています。
5	介護教室 介護予防の一貫として、介護している家族等を対象に講演会等を開催しています。
6	共同募金・歳末たすけあい募金 (共同募金) 市民の協力で募金を募り、集まった募金を福祉施設や社協活動、地域福祉活動に役立てています。 (歳末たすけあい募金) 市民の協力で募金を募り、集まった募金を低所得世帯や単親世帯、要介護世帯へ配分しています。
7	ボランティアセンター ボランティアコーディネーターを配置し、ボランティアを受けたい方、したい方の需給調整を行うとともに、ボランティアの養成や啓発事業を推進しています。
8	地区社協 連合自治会を単位に設置されている地域住民による任意団体です。市社協と連携しながら、小地域での福祉を支えています。
9	地域包括支援センター (介護予防支援等) 介護保険制度で要支援者と認定された方や要介護状態になるおそれのある高齢者へ介護予防のケアマネジメントを行っています。
10	介護者リフレッシュ事業 要介護度1以上の高齢者と同居し介護している家族を対象に、旅行・施設見学などにより介護者同士の交流を図り、心身のリフレッシュをしてもらっています。(年1回開催)
11	介護予防 (わっくわっく広場、音楽教室等) (わっくわっく広場) 地区社協の協力で、各地区で開催しています。軽スポーツ、レクリエーション、健康相談を通しての介護予防、閉じこもり防止を目的としています。年1回、全地域対象のわっくわっく広場交流大会を開催しています。 (アクティビティ音楽活動教室) 65歳以上の高齢者を対象に音楽を通して、身体機能の維持、閉じこもりの防止を行っています。月1回ふれあい福祉センターで開催しています。
12	車椅子の貸出 在宅で車椅子が必要な方に無料で貸し出しをしています。
13	ふれあい福祉センターの無料貸出 福祉団体を中心にふれあい福祉センターの会議スペースを無料で貸し出ししています。会議の他にサークル活動等にも活用されています。(冬期間のみ暖房料がかかります。)
14	ふれあいいきいきサロン 地域の支援グループ (ボランティア) の協力で、その地域の高齢者の方に文化的活動や軽スポーツを通しての生きがいをづくりをもらっています。
15	各種団体の事務局 伊達市共同募金会、伊達市ボランティア連絡会、伊達身体障がい者福祉協会、伊達市老人クラブ連合会、伊達市民生委員児童委員協議会の事務局を担っています。 大滝支所では、大滝地区シルバー人材センターの事務取次を行っています。
16	会食型給食サービス 65歳以上の高齢者を対象にデイサービスセンターにて月2回会食を行っています。
17	入浴サービス 65歳以上で入浴困難な方を対象に大滝地区内温泉浴場を利用しての入浴援助を行っています。(毎週1回)
18	高齢者外出支援サービス 65歳以上で地理的、身体的障がいのため、公共機関の利用が困難な方を対象に通院治療時等の送迎を行っています。

19	高齢者生活援助 65歳以上のひとり暮らし高齢者等で、心身機能の低下により日常生活を営むのに支障のある方へ、除排雪等の生活援助を行っています。
20	広報紙「社協だより」の発行 年3回（2、7、10月）に全世帯へ配布し、社協事業や共同募金の実績報告等のお知らせをしています。
21	地域福祉権利擁護事業 高齢や障がいにより福祉サービスの利用手続きや生活費の管理が一人では難しい方に「生活支援員」が訪問して、日常生活の心配ごと、困りごとの相談を受けながら、手続きや日常生活費の管理のお手伝いをします。
22	「ふれあい広場」の開催 子どもからお年寄り、障がい者が一堂に集い共に暮らす仲間としてふれあいと交流を広げるイベントです。市内の各福祉団体が中心となり、手話などの体験広場、福祉展、ふれあいの店等を催しています。午後からは、チャリティーピアガーデンを同時開催しています。
23	「社会福祉大会」の開催 地域福祉の推進に貢献された方々に感謝の意を表するために表彰を行うと共に、社会福祉の置かれている状況を見つめ直し、これからの地域福祉のあり方を考えるために、講演会や福祉映画の上映会などを催しています。隔年で開催しています。
24	各種チャリティー事業 福祉に関心のある方の交流を深めてもらうと共に、地域福祉推進の財源確保のために各種チャリティー実行委員会を設置し、開催しています。 チャリティーピアガーデン、チャリティーパークゴルフ大会、チャリティー麻雀大会、チャリティーふれあいカクテルパーティーがあります。

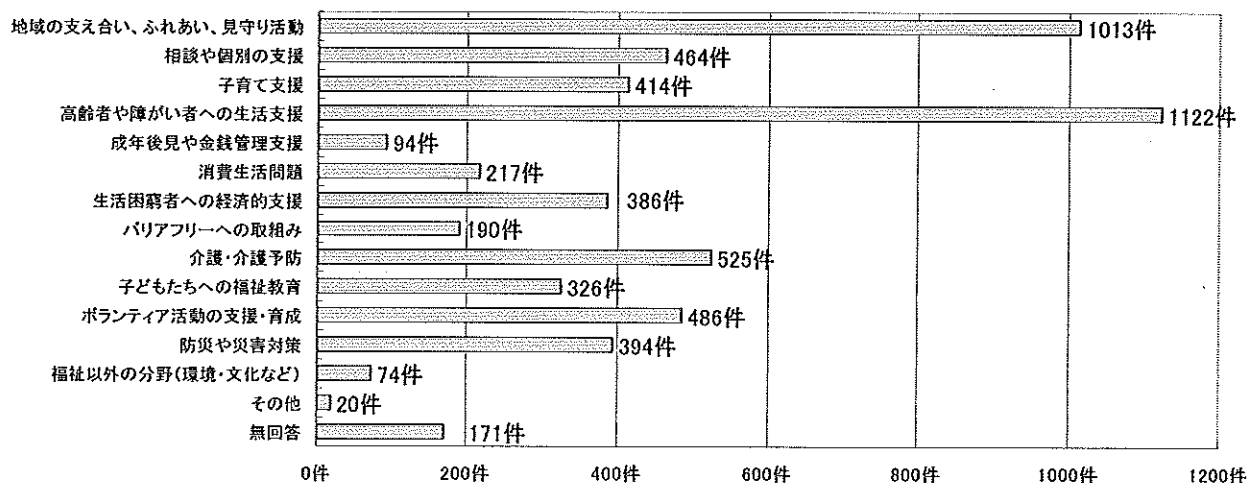
※ 1の給食サービスは伊達地区のみで行っている事業です。

16～19は大滝地区のみで行っている事業です。その他は伊達市全域での事業・サービスです。

#### 問14 社協が積極的に取り組むべき仕事（サービス）は、どれだと思いますか？（5つまで）

「高齢者や障がい者への生活支援」（67.0%）、「地域の支え合い、ふれあい、見守り活動」（60.5%）の2つが6割以上の回答率と突出している。

「成年後見や金銭管理支援」（5.6%）、「福祉以外の分野（環境・文化など）」（4.4%）は少ない。

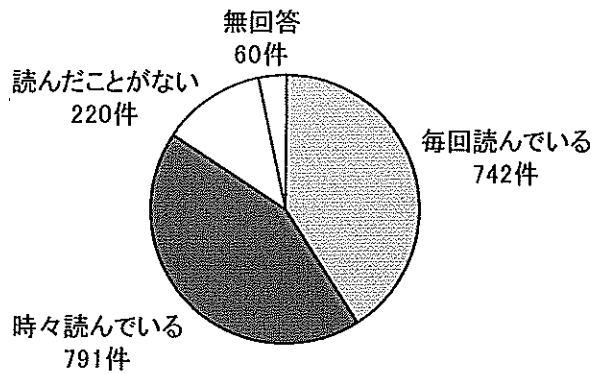


#### 〔「その他」の内訳〕

- ・社協活動の周知
- ・新団体、地域組織の結成支援
- ・住民活動、福祉団体のコーディネート
- ・古切手、テレカ等の回収

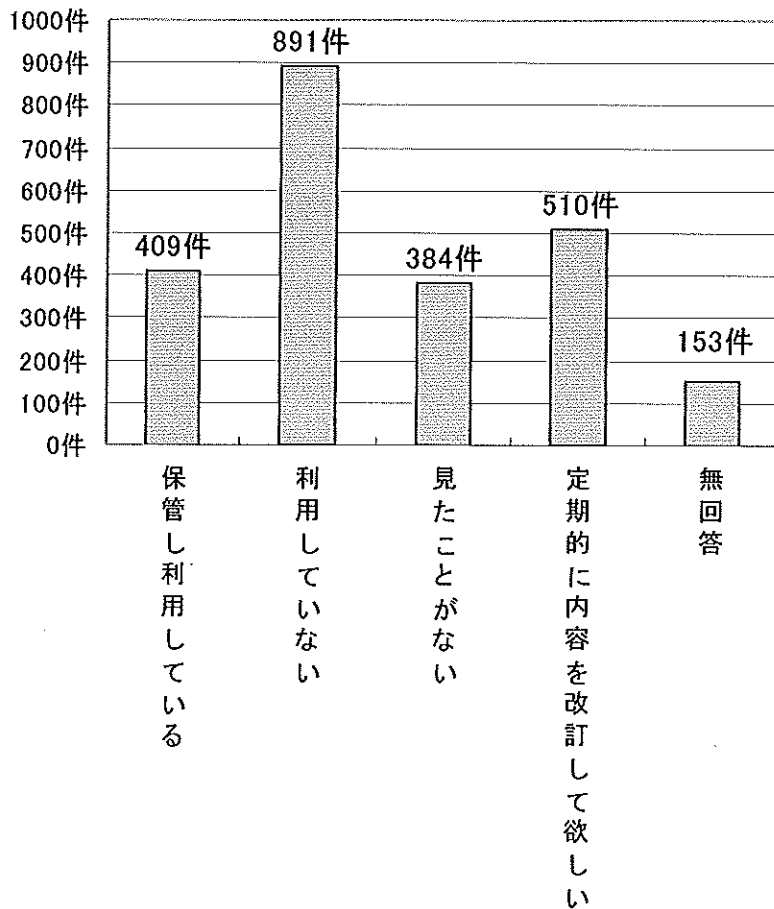
問15 社協が発行している広報紙「社協だより」（7・10・2月発行）についてお聞きます。

「毎回読んでいる」（40.9%）、「時々読んでいる」（43.6%）と84.5%の方が、社協だよりを読んでいる。  
男女差はほとんどない。



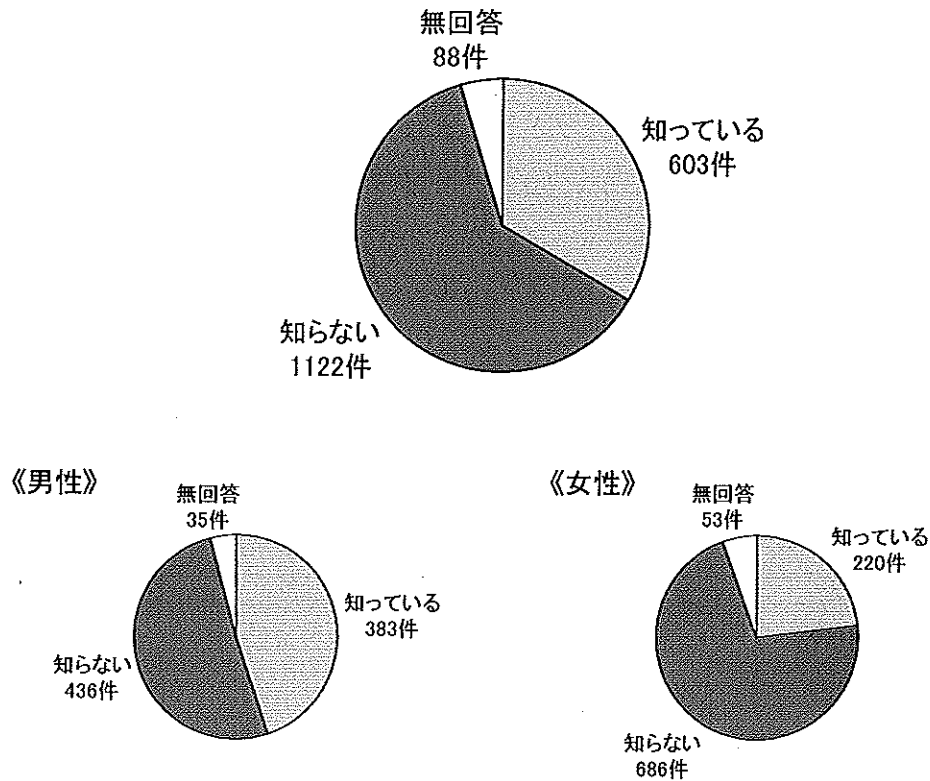
問16 社協は、平成18年度に社協の事業をわかりやすく説明した「暮らしのお役立ち情報（保存版）」を作成し、全世帯に配布しました。このことについてお聞きます。（2つまで）

「利用していない」（49.1%）、「見たことがない」（21.2%）を合わせると70.3%を占める。  
「保管し利用している」は22.6%で、28.1%の方が「定期的に内容を改訂して欲しい」と回答している。



問17 社協は、毎年、自治会を通じ伊達地区は1世帯年200円、大滝地区は合併後の地区サービス維持支援を含み1,200円の会費をいただいておりますが、このことについてお聞きします。

「知っている」が33.3%、「知らない」が61.9%と過半数を占めている。  
男女で比較すると「知っている」が女性は22.9%で、男性は44.8%と割合が高い。

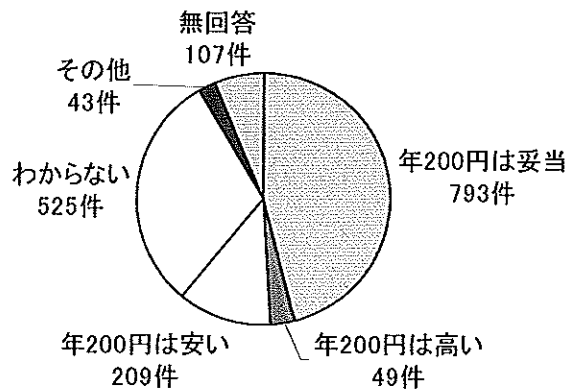


問18 会費の額について

(1) 伊達地区にお住まいの方にお聞きします。

伊達地区の会費（年額200円）については、「妥当」が45.9%、「高い」が2.8%、「安い」が12.1%となっている。  
男女で比較すると「わからない」が男性（25.6%）に比べ、女性（34.7%）の割合が高い。

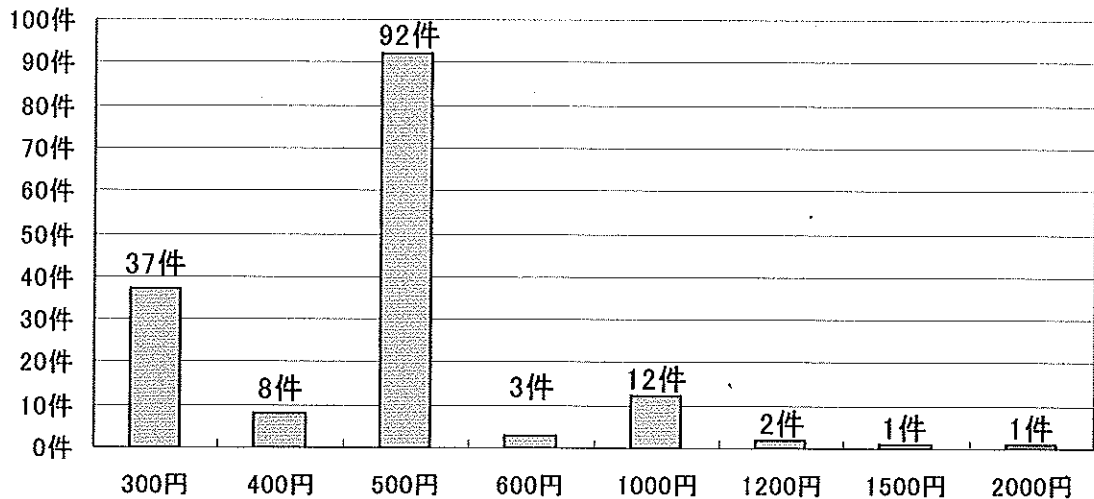
〔回答数〕1,726件（問5 居住地区での「無回答」含む）



《男女比》

	妥当	高い	安い	わからない	その他	無回答	合計
男性	404(49.8)	28(3.4)	102(12.6)	208(25.6)	28(3.4)	42(5.2)	812件(100%)
女性	389(42.6)	21(2.3)	107(11.7)	317(34.7)	15(1.6)	65(7.1)	914件(100%)

〔「年200円は安い」と回答した方の意見〕



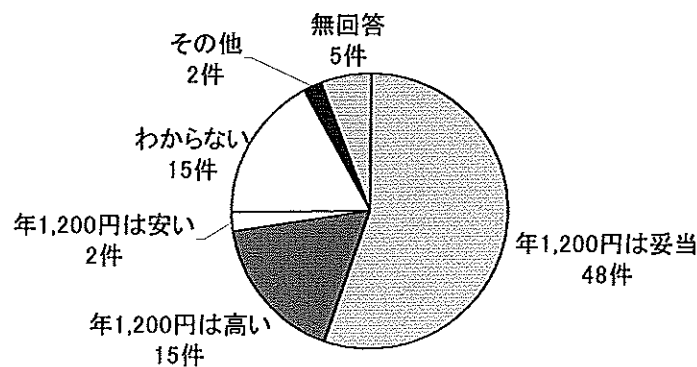
〔「その他」の内訳〕

- ・会費使途不明のため評価できない（使途を明確にして欲しい）
- ・事業内容次第。活動充実するのであれば高くても良い
- ・還元されている実感がない
- ・公費で賄われるべき
- ・強制的に取るべきではない
- ・会費は不要

（2）大滝地区にお住まいの方にお聞きします。

大滝地区の会費（年額1,200円）については、「妥当」が55.2%、「高い」が17.2%、「安い」が2.3%となっている。  
男女で比較すると「妥当」が女性（42.2%）に比べ、男性（69.0%）の割合が高い。

〔回答数〕 87件



《男女比》

	妥当	高い	安い	わからない	その他	無回答	合計
男性	29(69.0)	7(16.7)	0(0.0)	4(9.5)	1(2.4)	1(2.4)	42件(100%)
女性	19(42.2)	8(17.8)	2(4.4)	11(24.5)	1(2.2)	4(8.9)	45件(100%)

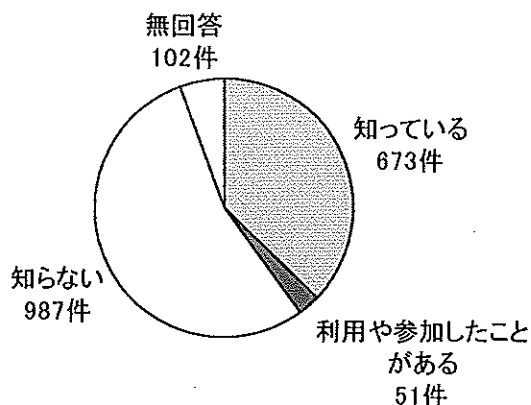
〔「その他」の内訳〕

- ・伊達地区と同じにできないか
- ・1,200円相当のサービスを受けている実感がない

問19 社協の「ボランティアセンター」についてお聞きします。

「知っている」(37.1%)と「利用や参加したことがある」(2.8%)を合わせると39.9%を占める。

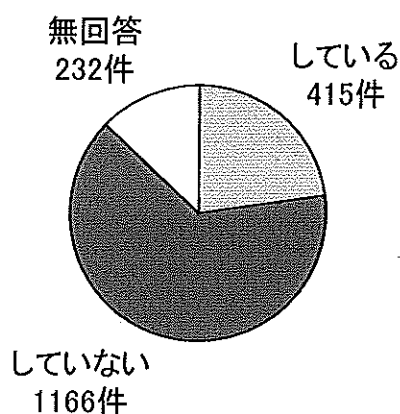
男女差はあまりない。



問20 あなたは、地域活動やボランティア活動に参加していますか？「している」と答えた方に回数をお聞きします。また、「していない」と答えた方は理由を教えてください。

地域活動、ボランティア活動の活動状況については、「している」が22.9%、「していない」が64.3%と過半数を占めている。

男女差はあまりない。



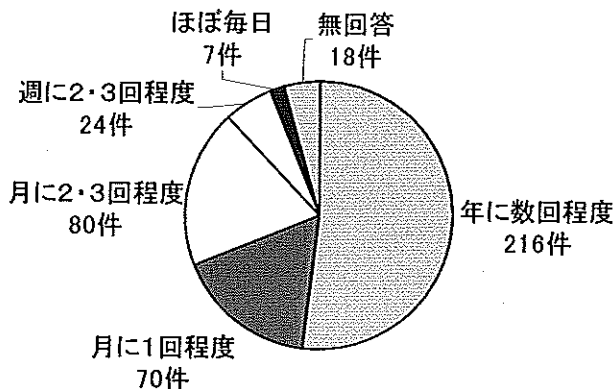
【「している」方の活動内容】

地域活動	・自治会 ・地区社協 ・高齢者の見守り、声かけ等 ・ゴミ出し ・防犯 ・除雪 ・会館清掃 ・交通安全指導 ・学童の見守り ・子供会 ・地域の運動会に参加
ボランティア ・サークル活動	・手話の会 ・点訳ボランティア ・朗読ボランティア ・視覚障がい者支援 ・配食ボランティア ・移送ボランティア ・介護予防活動 ・介護 ・調理 ・介護者と共にあゆむ会 ・老人クラブ ・婦人会 ・レクリエーション関係
子育て支援・教育	・子育て支援センター ・みらいクラブ (みらい館での子どもの見守り) ・障がい児のレク活動 ・布の絵本づくり ・絵本の読み聞かせ ・小学校のボランティア ・高校生の部活動
観光・文化等	・文化財支援 ・記念館ピオトープ ・有珠地区観光ボランティア ・宮尾登美子文学記念館でのボランティア ・噴火湾研究所
行事等	・わっくわっく広場 ・ふれあい広場 ・お祭りの参加
施設活動	・病院外来ボランティア ・障がい者施設ボランティア
環境整備 ・美化活動	・清掃 (道路・公園等) ・漁港清掃 ・リサイクル ・自然公園守る会 ・すくすく森づくり ・除草 ・道路、施設等の花の手入れ
その他	・共同募金等の各種募金 ・宅老所 ・音楽指導、演奏 ・献血呼びかけ ・シルバー人材センター ・消費者協会 ・ヘアカット ・平和活動 ・スポーツ団体支援

【「している」方の頻度】

「年に数回程度」(52.0%)が最も多く、次いで、「月に2・3回程度」(19.3%)、月に1回程度(16.9%)の順となっている。  
男女差はあまりない。

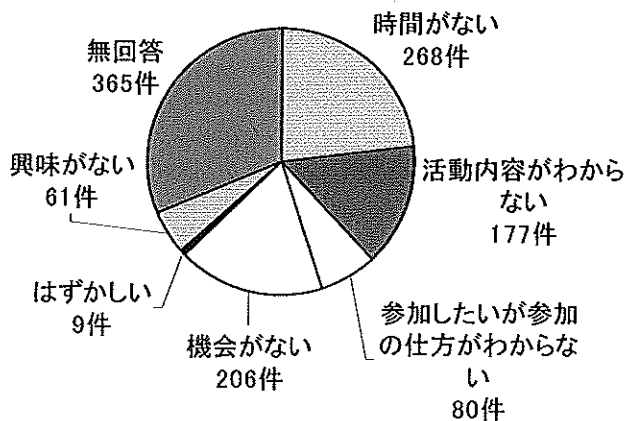
〔回答数〕 415件



【「していない」方の理由】

「時間がない」(23.0%)が最も多く、次いで、「機会がない」(17.7%)、「活動内容がわからない」(15.2%)の順となっている。  
選択肢にはなかったが、高齢・障がいによる身体的理由により諸活動ができないとの意見もあった。

〔回答数〕 1,166件

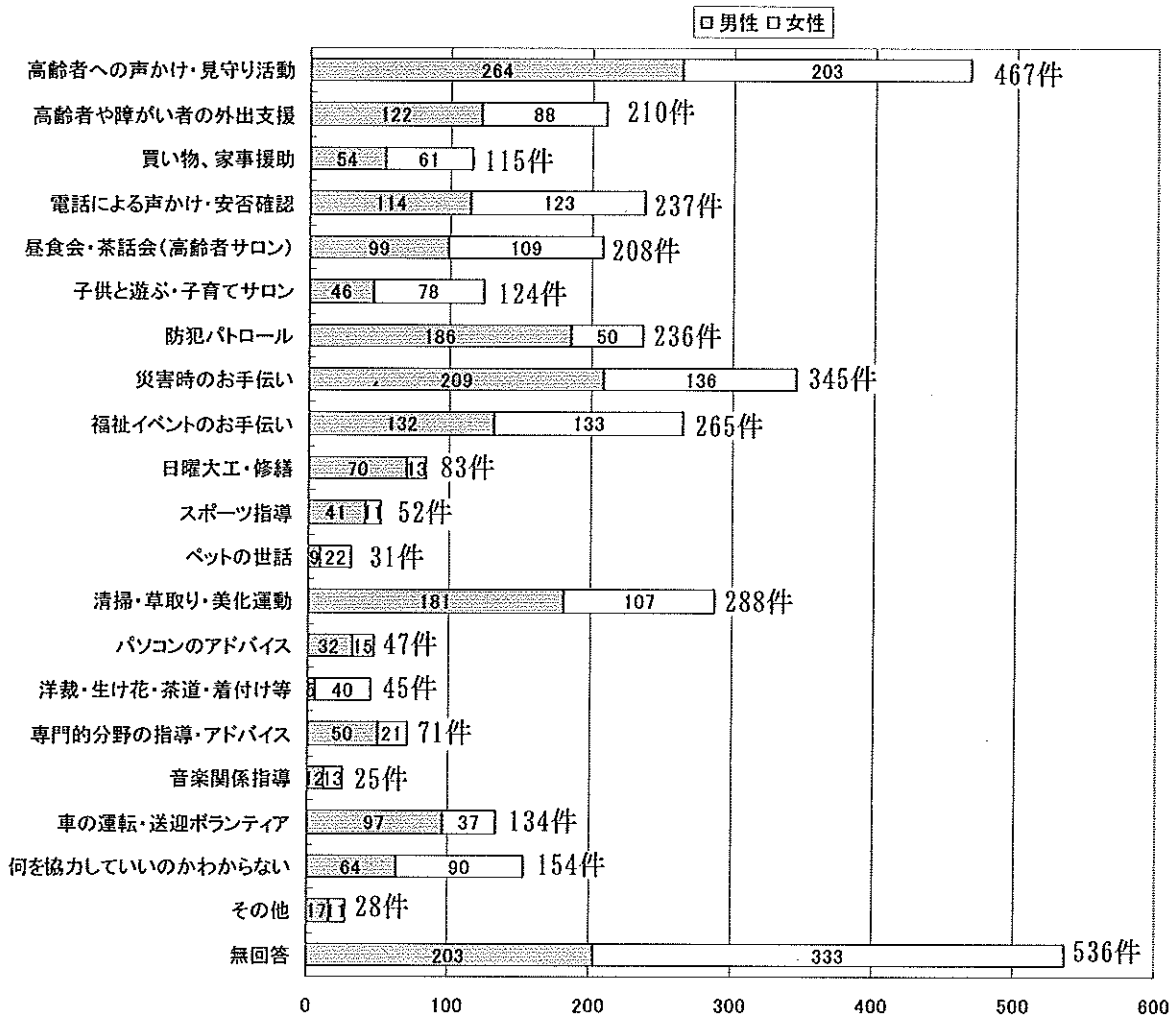


問21 問20で参加していると答えた方や、今後、参加したいと思っている方に、参加してみたい地域活動やボランティア活動をお聞きします。(複数回答)

地域活動やボランティア活動に参加してみたい方は、1,277件で70.4%を占めている。

「高齢者への声かけ・見守り活動」(36.6%)が最も多く、次いで、「災害時のお手伝い」(27.0%)、「清掃・草取り・美化運動」(22.6%)の順となっている。

男女別に見ると、「高齢者への声かけ・見守り活動」(男性：40.6%、女性：32.4%)、「災害時のお手伝い」(男性：32.1%、女性：21.7%)が共に多く、次いで、男性は「防犯パトロール」(28.6%)、女性は「福祉イベントのお手伝い」(21.2%)の順となっている。



〔「その他」の内訳〕

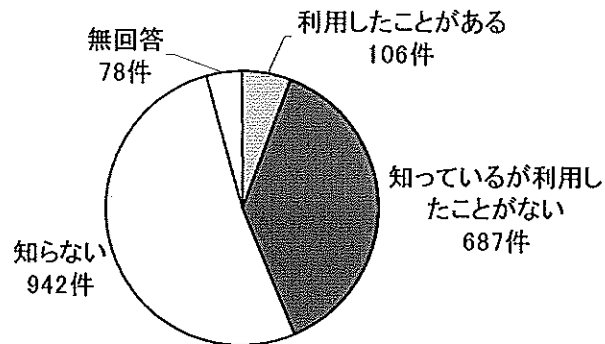
- ・自治会活動
- ・除雪
- ・庭の手入れ
- ・花壇整備
- ・認知症予防講座
- ・「食」指導
- ・交通安全指導
- ・障がい児の親同士の交流
- ・妊婦への声かけ
- ・リサイクル運動
- ・体力づくり指導
- ・レクリエーション指導
- ・演芸、手品披露
- ・ヘアカット
- ・家庭教師

問22 「伊達市地域包括支援センター」についてお聞きます。

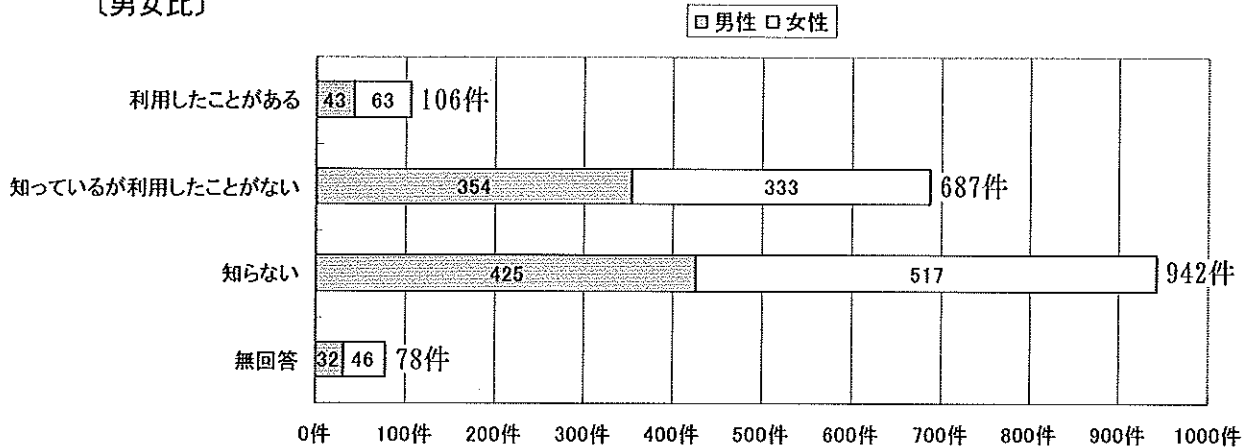
「利用したことがある」(5.8%)と「知っているが利用したことがない」(37.9%)を合わせると、43.7%の方が地域包括支援センターを知っている。

「知らない」と回答した方は52.0%を占める。

男女差はあまりない。



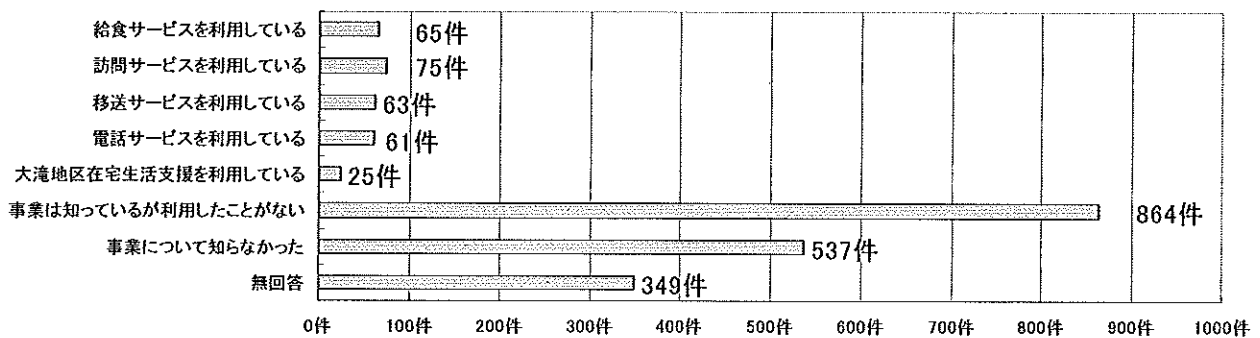
〔男女比〕



問23 社協が行っている、在宅福祉サービス事業の利用についてお聞きます。(複数回答)

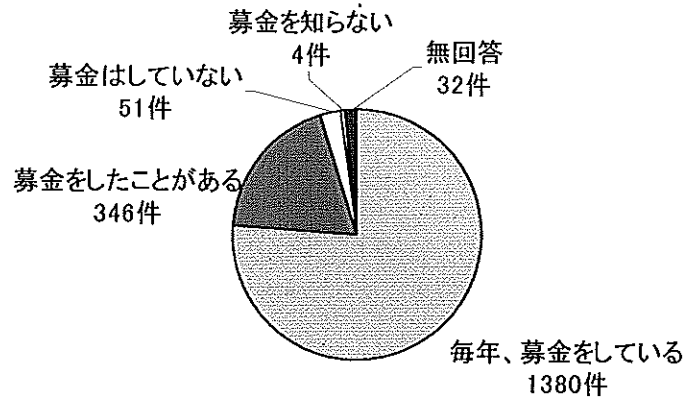
「事業は知っているが利用したことがない」が47.7%を占めている。「事業について知らなかった」は29.6%となっている。

回答者の在宅福祉サービスの利用状況は、「訪問サービス」利用が最も多い。



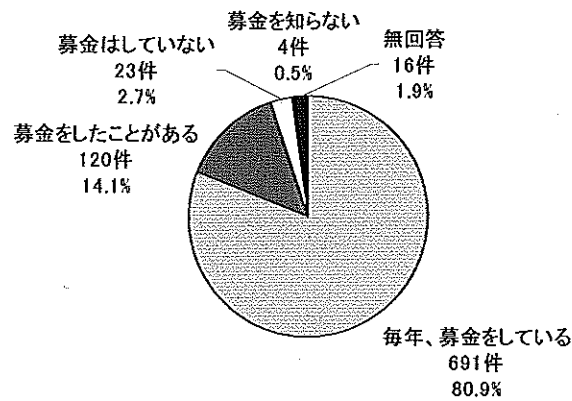
問24 「赤い羽根共同募金・歳末たすけあい募金」についてお聞きします。

「毎年、募金をしている」(76.1%)と「募金をしたことがある」(19.1%)を合わせると95.2%の方から募金の協力を頂いている。

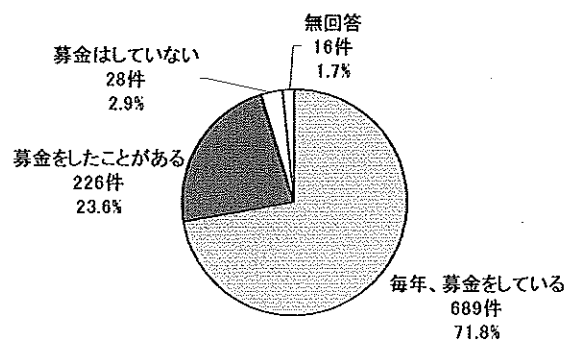


〔男女別〕

《男性》



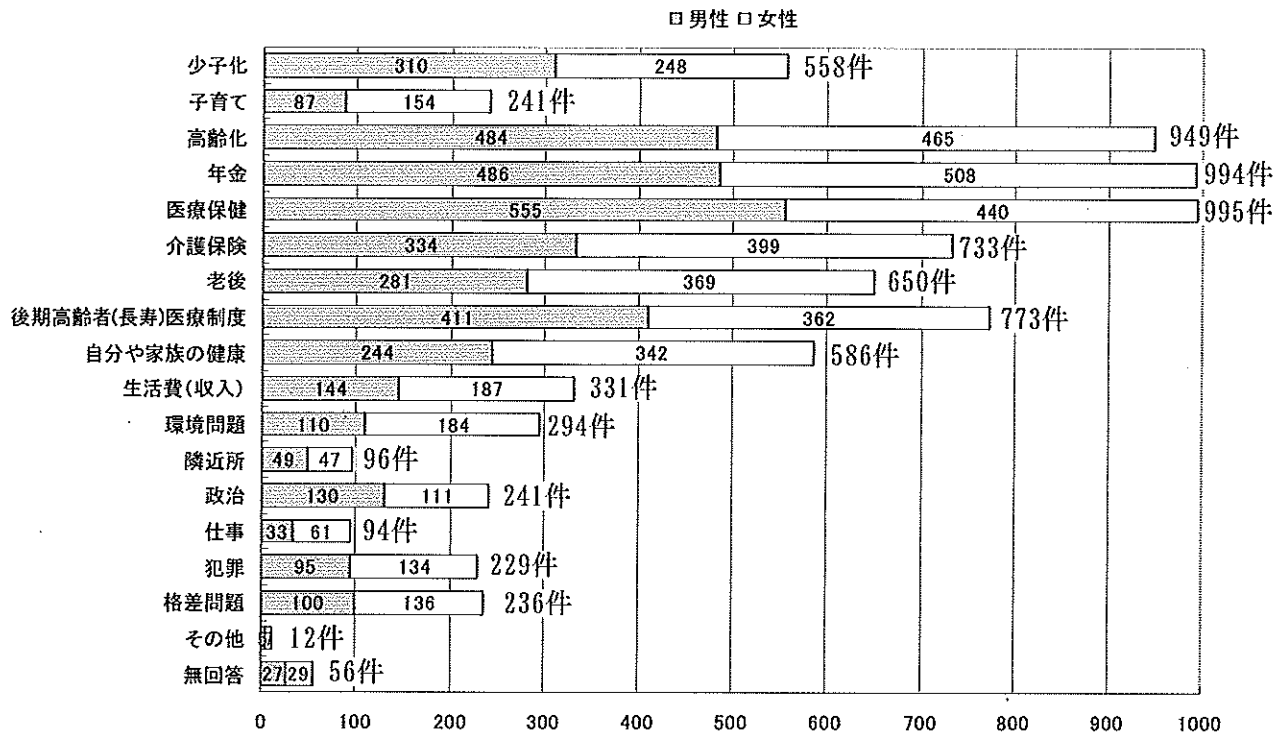
《女性》



問25 あなたが今、関心を持っていることをお聞きします。(5つまで回答)

「医療保健」(54.9%)が最も多く、次いで、「年金」(54.8%)、「高齢化」(52.3%)の順となっている。

男女別に見ても、上記3問題がそれぞれの上位3位の関心度となっている。



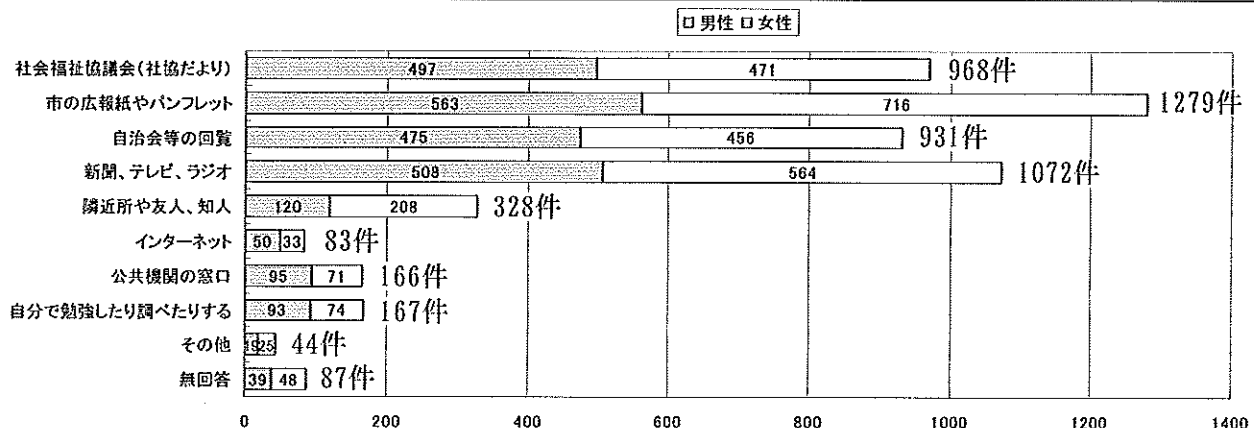
〔「その他」の内訳〕

- ・人との交流
- ・価値観の崩壊
- ・教育のあり方
- ・子供達を取り巻く環境
- ・景気
- ・心のケア
- ・食育

問26 あなたは福祉に関する知識や情報をどこから得ていますか？(複数回答)

男女共に「市の広報紙やパンフレット」(70.5%)が最も多く、次いで、「新聞、テレビ、ラジオ」(59.1%)、「社会福祉協議会(社協だより)」(53.4%)の順となっている。

男女を比較すると、あまり差はないが、「隣近所や友人」と回答した男性が14.1%に対し、女性は21.7%と割合が高い。



〔「その他」の内訳〕

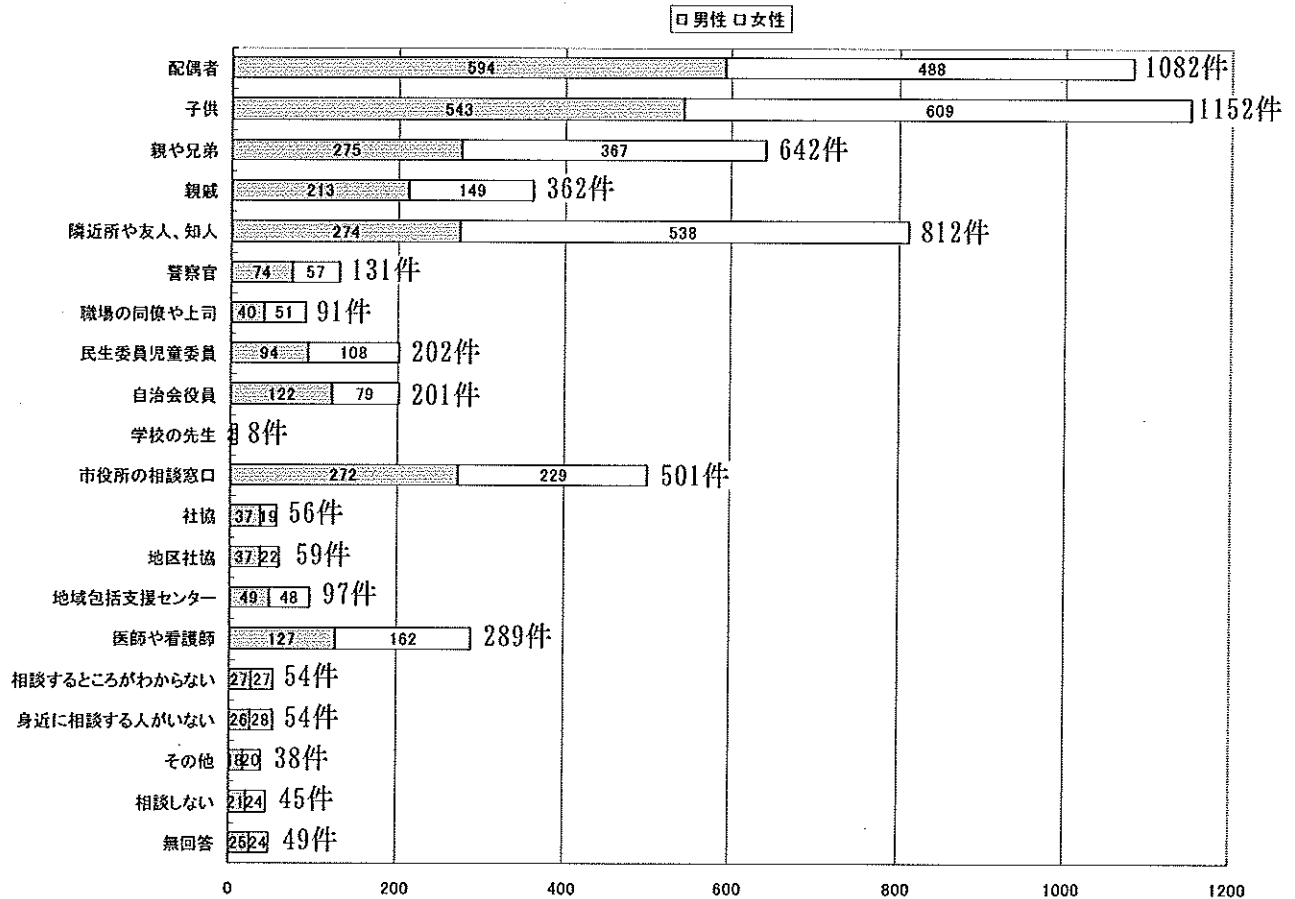
- ・障がい者施設や家族会
- ・家族
- ・シルバー人材センター
- ・病院
- ・政党、議員
- ・福祉関係の仕事をしている
- ・どこからも得ていない
- ・今は必要ないので知ろうと思わない

問27 日常生活をしていく中で困ったことが起きた場合、あなたは誰に相談しますか？（5つまで回答）

「子供」（63.5%）が最も多く、次いで、「配偶者」（59.7%）、「隣近所や友人、知人」（44.8%）の順となっている。

男女を比較すると、「配偶者」と回答した男性が69.6%と最も高いのに対し、女性は50.9%と3番目に高い割合になっている。また、「隣近所や友人、知人」と回答した女性が56.1%いたのに対し、男性は32.1%となっている。

「社協」は3.1%、「地区社協」は3.3%、「地域包括支援センター」は5.4%となっている。



〔「その他」の内訳〕

- ・ 障害者支援センター「あい」
- ・ 伊達コスモス21
- ・ 保健センター
- ・ 消費者協会
- ・ 福祉委員
- ・ 市議会議員
- ・ 弁護士
- ・ 各々の専門家
- ・ 恩人
- ・ 相談内容に応じて

## 意見・要望

※ 集約化のため、文章に修正を加えています。

### 1. 本アンケート調査について

1	アンケート結果を分析し、公表して欲しい。
2	市民の声を取り上げて実践して欲しい。
3	社協事業内容が理解しにくいので、簡単に説明願いたい。
4	アンケートの意義や趣旨が見えない。社協の方向性を示したいのなら、そのビジョンを示した上で調査すべき。
5	社協の中で活動していなければ分からない問いが多い。
6	設問が多すぎ。
7	設問が多く、知らないこともあり難しかった。
8	問27の設問の範囲が広すぎる。
9	今後も、何らかの形で意見等が伝えられたら良い。
10	時々、この様なアンケートがあると社協に関心が持てて良い。
11	高齢、障がいのために福祉・ボランティア活動ができない人と分けて調査して欲しい。
12	次回のアンケートでは、「近所で迷惑していること」の記入欄が欲しい。
13	年齢別に①困っていること②して欲しいこと③嬉しいこと④悲しいこと等のアンケートをしてはどうか。

### 2. 社協について

1) 全般	
1	市民一人ひとりの知恵と工夫で未来を作る。
2	お年寄りの暮らしやすい街にして下さい。
3	若者が住みやすい街にしなければならない。
4	障がい者の生活を見守ることが大切。
5	健康づくりを中心としたまちづくりを目指すべき。
6	もう少し住民に身近で前向きな姿勢を。
7	市民に届くサービス展開を望みます。
8	困っている人に頼られる社協であって欲しい。
9	地域の活動団体の中に入ってきて欲しい。
10	もう少し広い範囲での積極的な取り組みが欲しい。
11	自分でできることは自分自身で行っていく自立・自助を促す。
12	情報や知識に追いつけない高齢者が増え続ける中、寄付や負担金の煩雑さに戸惑っている。簡素化、集約化など分かりやすく平等な改善方向に努力して欲しい。
13	社協活動の先進的な地域から学んで欲しい。
14	社協が中心となって、イベントを増やし、地域のふれあいを図って欲しい。
15	社協がやることには限度があると思う。今は間口を広げすぎている。
16	無駄が多い。
17	福祉提供に携わる人のサポートやケアを考えて欲しい。提供する側が充実、安定した環境にいることが、真の福祉には必要。

1) 全般	
18	寄付に頼るのではなく、自ら財源を生み出す努力が必要。
19	寄付・募金に頼るのは最低限にして、公費で賄うべき。
20	寄付、会費の使途を明確にして欲しい。
21	自治会に会費、チャリティー行為を押しつけるのに疑問を感じる。
22	今回のアンケートで社協会費を知った。了解も入会もした覚えはない。
23	事業内容を見直し、地区社協支援体制の確立を検討する。
24	市社協と地区社協の役割分担が分からない。
25	地域福祉の推進には、自治会員の理解を得ることが必要。
26	自治会との連携を強くし、地域との関わりを持って欲しい。
27	自治会活動の活性化のため、イベントの「提案」、「アドバイス」をして欲しい。
28	自治会内、近所の交流が少ないので、推進すべき。
29	社協の場所が分からない。
30	社協の案内板（立て看板）が小さすぎて分かりづらい。
31	事務所が市街地から遠く、自家用車がないと不便。
32	駐車場が狭く、大きな行事に支障がある。
33	市内各福祉施設の一覧、内容等の分かるものがあればよい。
34	高齢者世帯調査を行い、援助願いたい。
35	家庭へ訪問し、何か悩みがないか調査して欲しい。
36	地域通貨を実現させて欲しい。
37	雨天時、冬期にも子供がのびのびと遊べる機会、場所があれば良い。
38	若者と高齢者とのふれあう場を作って欲しい。
39	高齢者が集まれるサロンのような場所が欲しい。
40	家周辺の除雪をお願いしたい。
41	空き地・空き家周辺の積雪処理、管理に困っている。
42	身寄りがなく、将来の金銭管理が心配です。
43	ひとり暮らしなので、病気で倒れた時が心配です。
44	近所にひとり暮らし高齢者がいて、夜中不安がっている。何か良い対策はないか。
45	経済的（タクシー代）にも身体的にも買い物が一番困る。
46	店舗駐車場の車椅子専用スペースに普通車を停めている。何か良い対策はないか。
47	老人クラブの自立化を図り、担当職員を新規事業等に従事できるようにする。
48	伊達市社協は高齢者対象事業のイメージが強い。
49	シルバー人材センターと活動内容が似ている。（ボランティアの支援は望んでいない）
50	社協が何をしているのか、外部からは見えてこない。
51	社協は日常生活とは離れた感じがし、親しみが感じられない。
52	現在のところ、社協についてあまり考えたことがない。

2) 広報活動	
1	もっと分かりやすく情報公開すべき。
2	社協活動についてPR不足
3	社協がどのような仕組みで、どのような役割をしているのかPRに力を入れて欲しい。
4	社協サービスがどのような内容で費用がどのくらい掛かるのか分かりやすく周知して欲しい。
5	社協活動を分かりやすく具体的に紹介したパンフレットが欲しい。
6	社協が何をしているところかよく理解できない。どんな時に社協へ行き、相談すればよいのか誰でも分かるようにして欲しい。
7	広報活動をし、積極的にネットワークを広げる必要がある。
8	事業の結果を大々的に公表して欲しい。
9	社協独自の広報紙は必要ないのでは。市の広報誌での周知でよい。
10	社協だよりが見づらい
11	社協だよりの内容が毎回同じ様なことで、見ない時が多くなった。内容の工夫を。
12	自治会未加入者へは社協だよりが配布されないので、その方へのPRをどうするのか。
13	広報紙の配布等、自治会に負担を掛けすぎている。
14	事業の単発的なお知らせではなく、半年通した行事予定があると良い。
15	ゴミの出し方(リサイクル品)をパンフレット等で周知して欲しい。
3) 事業	
1	わっくわっく広場は年2回開催して欲しい。
2	移送サービスの対象をもっと広げて欲しい。
3	介護保険事業(居宅介護支援・訪問介護)にもっと力を発揮して欲しい。
4	社協主催イベントの内容検討をし、フレッシュで魅力のあるイベントにして欲しい。
5	チャリティー事業(パークゴルフ大会、麻雀大会)は全市民を参加対象にして欲しい。
6	チャリティー事業は1,000円までにして欲しい。
7	市・自治会・体育振興会等と重複する行事に無駄を感じる。パークゴルフ大会・麻雀大会は社協の仕事外だと思う。
8	イベント時に市街地まで行く交通手段の検討をして欲しい。
9	市社協、地区社協等の存続のための事業となっているものがある。
10	大滝は元気な高齢者が多いので、保育所や小中学校の子どもと交流できるイベントを開催して欲しい。
11	全部ではないにしろ、行き過ぎたサービスが行われているように感じる。
4) ボランティア活動	
1	社協が中心となり、市民全て(大人も小人も障がい者も高齢者も)が自分の出来るボランティアを実行し、皆に優しいまちにしたい。
2	ひとり暮らし高齢者、老老介護世帯が増える中で、社協を中心としたボランティアネットワークを構築、地域で支える仕組みづくりの必要性を強く感じる。
3	ボランティアをされている人のねぎらいを忘れないように。
4	若い人達もボランティア等に参加しやすい工夫を。
5	ボランティア活動への取り組みを増やして欲しい。
6	ボランティアをした時にポイントが溜まるような制度があれば良い。

5) 地域包括支援センター	
1	地域包括支援センターという名称だけでは、事業内容が分かりづらい。
2	社協と地域包括支援センターの区別が分からない。
6) 役職員	
1	役員の若干名を一般から公募してはどうか。
2	職員自ら動いて活動して欲しい。
3	人手を増やして欲しい。
4	職員が多すぎる。
5	担当係だけでなく、誰もが答えられるプロフェッショナルな職員であって欲しい。
6	窓口、電話対応時、もう少し明るくサービス精神を持って対応して欲しい。
7	職員数、給与額を公表してはどうか。

### 3. 共同募金について

1	募金はあくまでも自発的なもの。自治会を通しての募金には疑問。
2	各戸を自治会班長が訪問して募金を集めることに疑問を感じる。自治会単位の募金でよいのでは。
3	自治会と老人クラブとで重複して依頼するのはやめて欲しい。
4	自治会班長が苦勞して強制的に集めている現状がある。
5	募金がどの様に使われるのか、もっとPRすべき。
6	もっと気軽に募金できるようになれば良い。
7	より多くの人々が協力しようと思うような取り組みをして欲しい。
8	学生が募金活動している時に、その子の前を通るたびに大声で何度も叫ぶので、指導して欲しい。理解しながらも不愉快になる。
9	街頭募金のあり方を検討して欲しい。
10	各種施設に配分された備品等がどの様に使用されているかの検証が必要。

## アンケートクロス集計結果（男女別・年齢別・居住地域別）

### 問7 あなたは隣近所とどの程度のお付き合いをしていますか？

①年齢別では、男女とも50歳以上の過半数が「ある程度」を含め近所付き合いをしていると答えている。男女の合計では50歳代で57.9%、60歳代で72.4%、70歳代で81.0%、80歳以上で79.3%と高齢になるほど隣近所との付き合いをしている割合が高くなっている。また、40歳代以下では、低年齢者ほど近所との付き合いが希薄になっており、特に20歳代の女性で「付き合いをしていない」と答えた回答者は16.7%となっている。

②地域別では、全ての地域で過半数が「付き合いをしている」と答えており、特に関内地区では92.3%が「近所付き合いがある」と答えている。地域のうち、東、中央、市街地区の30%以上の回答者が「挨拶程度」、「ほとんどない」、「全くない」と答えている。東地区や中央地区は宅地分譲等による住宅やアパートの新築等が増加している地区であり、地区内での住民の移動や他地区からの転入者、他地区への転出者が多く（アパート等に住んでいる期間が短い？）、そのような状況の中で結果的に近所付き合いが希薄になっているものと思われる。

(単位：件)

	調査数	良くする	ある程度	挨拶程度	ほとんどない	全くない	無回答
全体	1,813	451	828	487	36	9	2

#### 男女別

男性	854	234	368	226	20	4	2
女性	959	217	460	261	16	5	0

#### 年齢別

20歳未満	2	0	2	0	0	0	0
20歳代	9	0	2	5	1	1	0
30歳代	77	11	25	38	3	0	0
40歳代	151	12	62	71	6	0	0
50歳代	252	36	110	98	6	2	0
60歳代	550	142	256	141	8	3	0
70歳代	550	166	279	97	5	2	1
80歳以上	222	84	92	37	7	1	1

#### 地域別

黄金地区	84	27	41	14	0	1	1
稀府地区	111	37	55	17	2	0	0
東地区	399	99	174	117	6	3	0
中央地区	430	87	198	134	9	2	0
関内地区	26	12	12	2	0	0	0
長和地区	114	37	53	19	3	1	1
有珠地区	96	23	50	21	2	0	0
市街地区	452	105	198	137	11	1	0
大滝地区	87	23	42	20	1	1	0
地区不明	14	1	5	6	2	0	0

問9 あなたは地域行事や活動等に参加、協力していますか？

①年齢別では、男性は50歳以上、女性は60歳以上で60%以上が「良くしている」、「ある程度している」と答えており、特に、男性の60歳以上と女性の70歳代では70%以上が地域行事等によく参加協力している。一方、男女の合計で40歳代の55.6%、30歳代の61.0%、20歳代の77.8%が「あまりしていない」、「ほとんどしていない」と答えており、若年層の多くが地域行事等に参加協力していないことが分かる。

②地域別では、中央地区の女性を除く全ての地区で50%以上の回答者が「良くしている」、「ある程度している」と答えている。特に、黄金、稀府、関内、長和地区では80%前後が地域行事に参加協力していると回答している。

(単位：件)

	調査数	良くしている	ある程度している	あまりしていない	ほとんどしていない	無回答
全体	1,813	338	775	396	237	67

男女別

男性	854	226	359	157	83	29
女性	959	112	416	239	154	38

年齢別

20歳未満	2	0	1	0	1	0
20歳代	9	0	2	1	6	0
30歳代	77	2	27	26	21	1
40歳代	151	11	53	46	38	3
50歳代	252	23	102	78	45	4
60歳代	550	112	241	127	49	21
70歳代	550	151	259	85	37	18
80歳以上	222	39	90	33	40	20

地域別

黄金地区	84	20	50	11	3	0
稀府地区	111	28	61	17	2	3
東地区	399	59	181	94	48	17
中央地区	430	65	177	117	61	10
関内地区	26	9	10	4	1	2
長和地区	114	32	54	15	9	4
有珠地区	96	24	35	15	16	6
市街地区	452	82	168	100	81	21
大滝地区	87	19	38	21	7	2
地区不明	14	0	1	2	9	2

問11 あなたは、伊達市社会福祉協議会（社協）をご存知ですか？

30歳以上の60%以上が「社協を知っている」と回答している。全体でも68.4%の回答者が「社協を知っている」と回答し、概ね3人の内2人が社協を知っていた。特に、60歳以上の年齢層では、70%以上の回答者が「知っている」と回答しており、認知度は高かった。一方、30歳代、50歳代の男性では「名前は聞いたことがある」、「知らない」と答えた回答者が半数を上回っている。また、20歳代以下の回答者は少なかったが、その中でも「知らない」や「名前は聞いたことがある」と答えた回答者が大半であり、若年層で社協の認知度が低かった。

(単位：件)

	調査数	活動内容まで知っている	知っているが、知らない活動内容まで	名前は聞いたことがある	知らない	無回答
全体	1,813	459	781	308	139	126

年齢別

20歳未満	2	0	0	0	2	0
20歳代	9	0	3	3	3	0
30歳代	77	12	39	16	9	1
40歳代	151	21	69	36	19	6
50歳代	252	47	99	60	32	14
60歳代	550	149	235	84	32	50
70歳代	550	165	233	87	22	43
80歳以上	222	65	103	22	20	12

問17 社協は、毎年、自治会を通じ伊達地区は1世帯年200円、大滝地区は合併後の地区サービス維持支援を含み1,200円の会費をいただいておりますが、このことについてお聞きします。

①年齢別では、男性は70歳代で半数以上が「知っている」と答えたが、女性では全年齢層で「知らない」と答えた回答者が多かった。

②半数以上の回答者が社協会費の納入を知っていた地区は、男性では黄金、稀府、関内、大滝地区で、女性では大滝地区のみであった。全体では大滝地区の認知度は男女とも80%以上と高かった。会費と地域で行われている福祉事業の関連についての理解度の違いがあるか？自治会費徴収時の説明の仕方に問題があるのか？（社協会費が含まれていることを説明しているのか？）市民に対し、会費徴収とその理由、具体的な用途を明らかにしなければならないと思う。

	調査数	知っている	知らない	無回答
全体	1,813	603	1,122	88

#### 年齢別

20歳未満	2	1	1	0
20歳代	9	3	6	0
30歳代	77	18	59	0
40歳代	151	31	119	1
50歳代	252	58	190	4
60歳代	550	194	328	28
70歳代	550	225	295	30
80歳以上	222	73	124	25

#### 地域別

黄金地区	84	33	49	2
稀府地区	111	36	68	7
東地区	399	111	264	24
中央地区	430	126	293	11
関内地区	26	11	13	2
長和地区	114	39	66	9
有珠地区	96	32	58	6
市街地区	452	141	292	19
大滝地区	87	70	15	2
地区不明	14	4	4	6

## 問18 会費の額について

①年齢別では、全世代で「妥当」と答えた方が多かった。しかし、「妥当」と答えた方の回答率で50%を超えているのは30歳代(50.6%)、70歳代(53.5%)だけで、全体では46.4%であった。一方で「わからない」と回答した方は全体で29.8%と多かった。

②地域別では、全地域で「妥当」が多かった。男女別では全地域で「妥当」と答えた方が多かったが、女性では、黄金、稀府、関内、有珠地区で「わからない」が「妥当」を上回った。特に関内地区では「妥当」(11.1%)、「わからない」(44.5%)、「安い」(33.3%)であった。「高い」と答えた方は全体で3.5%であったが、大滝地区では17.2%と高かった。大滝区(1,200円)と伊達区(200円)の会費の差に原因があると思われる。

(単位：件)

	調査数	妥当	高い	安い	わからない	その他	無回答
全体	1,813	841	64	211	540	45	112

### 年齢別

20歳未満	2	1	0	1	0	0	0
20歳代	9	3	2	2	2	0	0
30歳代	77	39	4	5	26	3	0
40歳代	151	61	7	14	60	7	2
50歳代	252	117	8	32	83	8	4
60歳代	550	240	19	71	162	17	41
70歳代	550	294	19	56	137	6	38
80歳以上	222	86	5	30	70	4	27

### 地域別

黄金地区	84	33	3	13	31	1	3
稀府地区	111	46	4	13	37	1	10
東地区	399	187	10	37	131	9	25
中央地区	430	208	10	66	117	14	15
関内地区	26	15	1	3	5	0	2
長和地区	114	62	4	10	26	1	11
有珠地区	96	35	4	14	26	5	12
市街地区	452	204	13	52	147	10	26
大滝地区	87	48	15	2	15	2	5
地区不明	14	3	0	1	5	2	3

問19 社協の「ボランティアセンター」についてお聞きします。

①男性は70歳代を除き全ての年代で、女性は全ての年代で「知らない」と答えた方が多かった。全体で54.4%の方が「知らない」と答えている。多くのボランティア団体に支えられて地域福祉事業を実施してきたにもかかわらず、ボランティアセンターの認知度が低いことが分かる。ボランティア団体やボランティアへの関心はあると思われるが、中心となるべくセンター機能が十分ではない現状が露呈された。

②年齢別では、40歳代以下で70%を超える方が「知らない」と答えており、これからボランティア活動を担うはずの年齢層で認知度が低かったことは、社協としても早急に対策を考えねばならない。

	調査数	知っている	利用や参加したことがある	知らない	無回答
全体	1,813	673	51	987	102

男女別

男性	854	333	25	444	52
女性	959	340	26	543	50

年齢別

20歳未満	2	0	0	2	0
20歳代	9	1	0	8	0
30歳代	77	22	0	55	0
40歳代	151	39	0	109	3
50歳代	252	82	1	165	4
60歳代	550	228	16	278	28
70歳代	550	235	23	252	40
80歳以上	222	66	11	118	27

問 2 2 「伊達市地域包括支援センター」についてお聞きします。

男性で20歳代、70歳代、80歳代の方の半数以上が「知っている」と答えているが、女性では70歳代を除き全世代で半数以上が「知らない」と答えている。全体では70歳代で「知っている」と答えた方が半数を超えているが、52.0%の方が「知らない」と答えた。地域包括支援センターが本格稼働してから約2年になるが、介護予防への関心が未だ低い状況にあることと、意外と高齢者にも知られていない状況が明らかになった。

	調査数	利用したことがある	知っているが利用したことがない	知らない	無回答
全体	1,813	106	687	942	78

年齢別

20歳未満	2	0	0	2	0
20歳代	9	0	4	5	0
30歳代	77	1	20	56	0
40歳代	151	4	49	97	1
50歳代	252	13	75	159	5
60歳代	550	28	226	276	20
70歳代	550	37	243	241	29
80歳以上	222	23	70	106	23

問24 「赤い羽根共同募金・歳末たすけあい募金」についてお聞きします。

募金に関しては、男女とも全世代で「毎年、募金している」、「募金をしたことがある」と答えた方が半数以上であり、特に30歳代以上では95%にのぼっている。全体では、95.2%が「毎年、募金している」または「募金したことがある」と答えており、共同募金の定着を窺うことができる。しかし、募金額は減少傾向にあり、集金の仕方を検討すべきであると思われる。

(単位：件)

	調査数	毎年、 募金をして いる	募 金 を し た こ と が あ る	募 金 は し て い な い	募 金 を 知 ら な い	無 回 答
全体	1,813	1,380	346	51	4	32

年齢別

20歳未満	2	1	0	1	0	0
20歳代	9	0	7	1	1	0
30歳代	77	28	45	4	0	0
40歳代	151	85	59	6	0	1
50歳代	252	155	83	12	0	2
60歳代	550	446	81	12	2	9
70歳代	550	475	53	11	0	11
80歳以上	222	190	18	4	1	9

問26 あなたは福祉に関する知識や情報をどこから得ていますか？（複数回答）

年齢別では、50歳代までの男性と20歳代の女性では「新聞やテレビ、ラジオ」と答えた方が多く、男性の60歳代以上と女性の30歳代以上では「市の広報紙やパンフレット」と答えた方が多かった。若年層では新聞、テレビ、ラジオ等の報道機関、中高年層は市広報紙等から情報を得ており、どちらかと言えば60歳以上の方が社協から福祉情報を得ていることが分かる。

(単位：件)

	調査数	社会福祉協議会（社協 だより）	市の広報紙やパン フレット	自治会等の回覧	新聞、テレビ、ラジ オ	隣近所や友人、知 人	インターネット	公共機関の窓 口	自分で勉強したり調 べ	その他	無回 答
全体	1,813	968	1,279	931	1,072	328	83	166	167	44	87

年齢別

20歳未満	2	1	1	1	2	1	0	0	0	0	0
20歳代	9	2	7	3	12	0	3	1	0	1	0
30歳代	77	29	49	32	39	9	11	9	7	0	2
40歳代	151	54	99	56	93	22	16	6	8	2	9
50歳代	252	116	173	107	148	40	15	16	24	4	10
60歳代	550	340	417	296	301	104	25	61	51	16	19
70歳代	550	316	378	327	348	105	11	57	54	16	29
80歳以上	222	110	155	109	129	47	2	16	23	5	18